

町全体が巨大な牧場のようなレキシントンの風景

株式会社サラブレッド・ブリーダーズ・クラブ

村尾 隆平

まず最初に、この素晴らしい研修を長年にわたって企画・実施されている日本競走馬協会様、並びにこの研修へ参加する機会を与えてくださった我社の関係者の皆様に深く感謝し、心からお礼申し上げます。

私自身初めての海外ということもあり、渡航前は期待と不安が入り混じる複雑な心境でした。しかし、いざアメリカの地に立つとそのような感情は吹き飛び、目に映るものにとただただ圧倒され、感動の連続でした。競馬観戦や牧場視察、セリ場見学はもちろんのこと、歴史的建造物の数々やバーボン蒸留所見学から日々の食事やショッピングに至るまで、さまざまなアメリカの文化風習に触れることができたのは大変貴重な体験でした。

今回の研修で最も印象深かったことといえば、やはりブリーダーズカップ観戦です。日本での繋養が予定されているコンデュイットが勝利したターフは、日本人として大変誇らしく思いました。そして、牡馬勝りの馬格を持つゼニヤッタがアメリカやヨーロッパの強豪牡馬たちを破り、歴史的な勝利を収めたクラシックは、レース後しばらく体の震えが止まりませんでした。あのときの競馬場の一体感は、日本では味わえない独特なものでした。

アメリカの競馬観戦において日本と大きく違う点は、声援の質だと思われます。日本ではゴール近くになって自分が資金を投入している馬を応援するのに対し、アメリカはパドックや装鞍所だけでなく、本馬場入場の道中までもが馬と観客の距離が非常に近いので、騎手や馬に気軽に声を掛けることができ、皆で送り出すといった雰囲気強く感じられました。レースでもスタート直後からかなりエキサイトしていて、直線に向くと地響きのような歓声がかかります。しかもそれらはほとんどが勝ち馬に注がれています。これが競馬という“観る”スポーツの原点なんだと実感できた瞬間でもありました。

その一方で、歴史あるハリウッドパーク競馬場が再来年には取り壊しが予定されていることなど、経済危機はアメリカ競馬にも及んでいるなと感じました。これは日本にもいえることですが、ゼニヤッタのような国民的スターホースが常に競馬界を牽引して馬券の売り上げに貢献していかなければ、衰退の一途を辿る厳しい現実があるのかもしれない。

今年、私たちが観戦したサンタアニタパーク競馬場では、昨年からメイントラックがプロライドというオールウエザー素材に入れ替えられ、来年からドバイワールドカップの行われるメイダン競馬場でもオールウエザー素材タペタトラックの使用が決まっています。これら世界のビッグレースで芝適正が重要視されることにより、ヨーロッパや日本の一流馬たちがアメリカで種牡馬入りする日も近いかもしれません。

ブリーダーズカップ観戦に続いて、種馬に携わる人間として何よりも期待していた牧場

視察となりました。移動中のバスの車窓から見えるレキシントンの風景は、牧柵が綺麗に並び、町全体が1つの巨大な牧場のような錯覚さえ起きるほど壮大でした。

訪問したどのスタリオンも隅々まで手入れが行き届いており、“見せる”意識の高さを感じさせられました。場内に池や噴水のあるところもあり、厩舎は歴史を感じるものからより機能的に造られた最新のもの、さらには専用種付所のあるものまで多種多様でした。やはり仕事上、種付所に目が行きました。どこもシーズンオフとは思えないくらい手入れされていました。敷料にはクッション性の高いウッドチップやタイヤを砕いたゴムチップを使っているところから、日本のように土砂を使用しているところまでありました。一概にどれが優れているとはいえませんが、試行錯誤しながらより良い条件で種付を行おうとしている姿勢を感じました。

数あるスタリオンのなかで特に印象深かったのは、レーンズエンドファームでした。エーピーインディやキングマンボ、スマートストライクといったアメリカを代表する種牡馬から、今後アメリカの種牡馬界を牽引していくであろうカーリン、そして何といても私が担当している馬の父であるプレゼントタップに会えたことは至極の喜びでした。

このマンモススタリオンでは1人のスタッフに目が釘付けになりました。彼は、種牡馬を扱う技術が優れているのはもちろんのこと、「どうだ、見てくれ。この馬はこんなに素晴らしいんだ」と私たちに笑顔で語りかけてくれました。70頭近くの種馬を見学させてもらいましたが、種馬を誇らしげに扱っているのが強く伝わってきたのは彼だけでした。おとなしくポーズを取らせることばかりに気をとられることなく、心に余裕を持つことの大切さを改めて痛感しました。私はまだまだ未熟であり、勉強すべきことも多くありますが、彼に出会えたことでこの仕事に対する意識がより高くなり、自信が湧いてきました。これこそがスタリオンマンとして本来あるべき最良の姿だと胸に刻みました。

今回の研修に参加させてもらい、親しみやすいアメリカの方々や他のメンバーの皆さんとの会話などから学ぶことはたくさんありました。このような有意義な研修を今後も続けていかれることを心から願います。

最後になりましたが、引率して下さった錦岡牧場の土井社長、並びにJTBの鈴木さん、お二方の尽力なくしてはこの研修がここまで充実し、楽しいものにはならなかったと思います。10日間、本当にありがとうございました。

そして研修に参加した皆さんとともに、今後それぞれの持ち場でこの経験を最大限に活かしていくことをここに誓います。